

# 「建設業で本当にあった心温まる物語」

NPO法人建設経営者倶楽部KKC 理事長  
(ハタ コンサルタント株式会社代表取締役)  
降旗 達生



NPO法人建設経営者倶楽部KKC（愛知県名古屋市長、平成19年設立、会員数70社）は、3K（危険、汚い、きつい）に代表される建設業のマイナスイメージを、やり

が、働きがいといったプラスイメージで覆そうと考えました。会員を含め約500人の建設業従事者、およびその家族など建設業と関わりのあった方より実話に基づく『心温まる物語』を収集し、そのうち61編を厳選して、思わずホロッとくる話を書籍にまとめました。以下は、その一例です。

私が建設会社に入社して間もないころ、鉄道の連続立体交差事業に携わっており、仮線・仮ホームの測量業務を任されました。仮ホームといえど緩和曲線やカントを考慮しなければならず、厳しい精度を要求されました。

あるとき、ホームと鉄道との間隔に5mmの誤差があったため、ホーム先端の10数mの施工をやり直しました。再度施工したホームの先端は、何回も何回も計算し、測量し、確認しました。しかし電車が入ってきたとき、電車がホームに衝突したらどうしよう、と不安でしかたありません。

ついに、始発電車が近づいてきました。多くの工事関係者が見守る中、電車はホームと接触することなく、滑り込んできました。これが、私のつくった構造物が社会资本としてこの世に出た瞬間でした。涙が止まりません。嗚咽するほど涙があふれました。今まで建設の仕事が続けてきたのはこのときの感動があったからだと思っています。(48歳男性)

建設総投資が1998年84兆円から2012年40兆円に半減。建設業就業者数は2002年の609万人から2012年は502万人と107万人減少しています。一方近年、震災復興、国土強靱政策のもと、建設投資が増加しており、全国的に人材不足が顕著になっています。

中高大学生が建設業界に対する関心を高め、一人でも多くの若者が建設業界の扉を開くよう学生対象に、『建設業で本当にあった心温まる物語』を無料配付しています。また、建設会社にて、人材採用時・社員教育時に企業でも活用していただいています。

『建設業で本当にあった心温まる物語』を通じて、建設業の真の様子や心優しき人たちの姿、さらには建設ものづくりの大切さを一人でも多くの方に知っていただき、建設業界の活性化、ひいては日本全体の成長につなげたいと思います